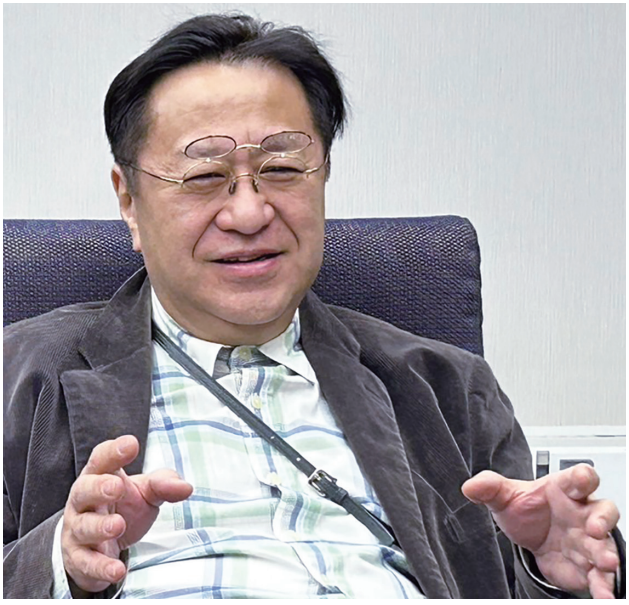
わが人生の転機

心に残る ひと言・人・作品 リレートーク⑧

コンタクトレンズを国内で初めて実用化した株式会社メニコン（本社・名古屋市中区葵）はグローバル企業に成長した。創業者・田中恭一（1931-2024）の長男で、同社社長、会長を務め、このほど名誉会長に就任した田中英成氏は眼科医と利用者の目線から常識を覆す経営戦略で飛躍への道筋をつけた。甘えん坊で泣き虫だったと、幼少期を自己分析するが、強要されない自由な生活は、自立心、独創的な思考を育み、長じて好きなことに集中して成果を上げる術を身につけた。

自由、寛容さが自立心、独創的な発想を生む 偉大な父の背中に学び、会社をグローバル企業に

株式会社メニコン
田中英成名誉会長



6歳下の妹が生まれるまで田中氏は「一人っ子」のように育ったという。メガネ店で働く父・恭一が米軍将校夫人からコンタクトレンズを見せてもらえないまま、一念発起してレンズ作りに挑戦、1951年2月に眼球の角膜部分だけを覆う角膜コンタクトレンズを完成させた。その8年後の1959年10月に田中氏は誕生する。人生の記憶は、父の職場で一人で遊ぶ姿から始まる。

「父の執務室が当時の名古屋駅前、毎日ビルにあり、母が買い物をしている間、よく預けられていました。別室の父の仕事を邪魔しないよう机の下で一人、積み木をして遊んでいました。社員の真似をして電話に出て、勝手に切ってしまったことも。退屈すると、社員に連れられ隣の喫茶でパフェを食べさせてもらいました。結構、甘えん坊でしたね。」

幼少期は内気で、運動が苦手で、泣き虫だったと振り返る。両親はもちろん誰からも勉強を強要されず、小学校に入ってからも勉強とは無縁。遊び相手はクマや犬のぬいぐるみ。ディズニー作品「くまのプーさん」に登場する少年、クリストファー・ロビンのように、話しかけては妄想に耽っていたという。友達とはプラレールやレゴで遊ぶなどインドア派。



幼少時の英成氏



幼少時の英成氏と父恭一氏

「テレビ漫画も大好きでした。正直に言いますと、そのころから本が嫌い。読むのが遅い。周りには優秀な同級生が多く、彼らが10ページ読む間に自分は2ページ目、という具合。人前で話すのも苦手でした。試験の前日まで何もせず、勉強の仕方も分からずにいました。成績は当然悪い。テレビで漫才を見ていて、その真似をして、ギャグを考えるようになり、話好きに。授業中に先生の言葉尻からダジャレや横やりを入れては叱られていました。今から思えば皆にうけたい思いからでしょうね。」